

祝 辞

日射しが日に日に強まる今日の日よき日に農業大学校を卒業される皆様、おめでとうございます。心よりお祝いを申し上げます。また、今日の日を心待ちにされておられた御家族の皆様におかれましても誠におめでとございます。

さて、国会では働き方改革を巡る議論が活発に行われております。また、農林水産省においても農業版の働き方改革検討会が設置され検討が進められております。

これは、農業就業人口が平成二十八年には一九二万人と二〇年前から半減して来ております。国の総人口も減少し始め、他産業でも労働力の確保が重要問題化してきており、従来から農業就業者の確保は難しい課題でありましたが、これからは更に他産業との人材確保競争の時代となり、農業就業者確保は難しい問題となることからです。

このような社会状況の中、卒業される農業経営コース四一名、実践経営者コース三名の皆様は農業、農業関連産業からも大いに期待されている存在と言うことになると思います。皆様は一〇年、二〇年、三〇年後は長野県、そして日本の農業など産業の柱として活躍していただく立場です。大いに期待したいと思います。

さて、農業大学校同窓会は、百周年事業を実施してから四年を迎えます。これは小松会長のよく言われることですが、百周年を契機として「同窓生のタテとヨコのつながり」をより深める必要があると。今同窓会はそれに沿って色々な活動をさせていただいております。

私が社会に出たのは約半世紀前のことですが、右も左もわからないときに先輩から「そうか後輩か」と言われ大変心強く思ったことは一度ならずありました。皆さんがこれから向かわれるそれぞれの地域には必ず先輩の同窓生がおり、そして同窓会があり、必ずや力になつてくれることでしょう。

卒業生の皆様がこれから進まれる社会と言うのはストレスの多いところですが、親子でさえ今までの庇護の関係から同じ社会人同士となると場合によってストレスの原因となることもあります。大人とはこのストレスを管理して行くことが必要です。

爆発や発散ではありません、管理です。なかなか最初からは難しいことですが、人生を歩みながら、先輩や仲間の力を借り自分の形を作って行くものです。将来

敬愛される社会人となられますよう御健闘を祈ります。

最後になりましたが、農業大学校教職員の皆様、前途洋々たる若者を育てていただいております。必ずやこの皆さんが次の長野県を支えることになるでしょう。これからも見守っていただきたいと思います。

一言、社会に旅立つ皆様に激励の言葉を申し上げ、祝辞といたします。

平成三〇年三月六日

長野県農業大学校同窓会

副会長

萩原 正明